

コロナ禍を乗り越え、コロナ禍後に備えるために「主体的に学ぶ力」を身に着けよう
— 「足利5S学校」で考える—

開倫塾
塾長 林明夫

Q：「足利5S学校」とは何ですか。

A：足利商工会議所に設置された「足利流 5S」を学ぶ学校です。日本最古の学校「足利学校」の歴史と伝統を受け継いだ「足利流 5S」学校です。

Q：「5S」とは何ですか。

A：ローマ字で書くと「S」で始まる5つの文字で表される改善活動です。

- (1) 「整理(seiri)」-----不要なものは処分する
 - (2) 「清掃(seisou)」-----きれいに掃除する
 - (3) 「整頓(seiton)」-----ものは同じところに置く
 - (4) 「清潔(seiketsu)」--- (1)～(3)を継続する
 - (5) 「躰(shitsuke)」-----自分で決めたこと、みんなで決めたことは、自分から進んで行う
- *この意味の「躰」は、コロナ禍を乗り越え、コロナ禍後に備える「主体的に学ぶ力」を身に着けることに直結します。

Q：足利市では「5S」活動がさかんなのですか。

- A：(1)はい。足利商工会議所の会員を中心に150以上の企業や事業所、学校や市役所などが「足利5S学校」を組織。
- (2)相互訪問会を含む勉強会を定期的で開催。全国各地から、また、世界各地から視察団が毎週のように訪れています。
- (3)「世界5Sサミット」など「足利流5S」の国際大会も定期的で開催されています。

Q：「足利5S学校の理念」とは何ですか。

A：6つあります。

- (1)5Sを通して美しく安全で安心して住める街・足利を目指します
- (2)市民・市内に働く人・企業・学校・病院・その他の団体など足利に関わる全ての人に参加できるものとしします
- (3)5番目の「しつけ」は「躰」で身を美しくと書きます。形から入り関係する人の心を磨くことを主眼に置きます

- (4)街ぐるみの 5S で足利と足利学校を全国に発信します
 - (5)足利 5S 学校は全国の市区町村に足利流の 5S の手法をオープンにし、要望がある所には足利流 5S のインストラクターの養成を推進します
 - (6)インストラクターの養成によって全国に「足利流 5S」を広げ、ささやかながら日本全国の文化・経済の基盤強化をサポートします
- *以上 6 項目を足利 5S 学校の理念として宣言しています。

Q：「足利5S学校」では「5Sインストラクター」の養成講座もやっているのですか。

- A：(1)はい。「5S インストラクター」という各企業や事業所に 5S を広める推進役を育成しています。1 年を前期・後期に分け、半年間 10 日間コースで日本一充実した「足利 5S 学校」インストラクター養成講座を行っています。(毎期、約 10 名が参加)
- (2)この講座は本年度、令和 3 年度で 12 期を迎え、4 月 27 日(火)午前 10 時から 40 分間、史跡「足利学校」の「方丈」で第 12 期前期インストラクターの「開講式」がありました。
- (3)「足利 5S 学校」は日本最古の学校「足利学校」の歴史と伝統を受け継いでいますので、開講式では、足利学校が日本国中に広めた「論語」の「素読」も参加者全員で行いました。

Q：なかなかユニークな活動ですね。開倫塾でも「5S」をやっているのですか。

- A：(1)「足利 5S 学校」のお許しを得て、「開倫 5S 学校」を開倫塾の全校舎で開講。少しずつですが「足利流 5S」をみんなで学んでいます。
- (2)すでに開倫塾でも数名が「5S インストラクターコース」を修了。少しずつ本部事務所と全校舎に「足利流 5S」の普及をはかっています。
- (3)私が役員を仰せつかっている様々な団体にも「足利流 5S」をご紹介。「5S インストラクターコース」にもご参加頂いています。また、私が中学校、高校、大学や様々な団体から講演を依頼された場合には、僭越とは思いますが、必ず「足利流 5S」のお話を 5～6 分間させて頂き、「最も簡単な形での、今すぐできる足利流 5S」をご紹介しています。

Q：学習塾・予備校・私立学校の幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

- A：(1)もし「足利流 5S」にご関心があれば、「足利 5S 学校」にお取り次ぎいたしますので、遠慮なくご連絡ください。ホームページを検索し、ご覧ください。
- (2)皆様がお住まいの街でも、「足利 5S 学校」のように特色ある活動をおやりになっていると思います。そのようなものがあれば、どうか遠慮なく積極的に街の人々と交わり、ご自分の学習塾、予備校、私立学校に取り入れること、また、どんどん発信なさることをおすすめします。
- (3)開倫塾の本社がある足利市の足利商工会議所の中に「足利 5S 学校」があり、日本はもとより、世界でも有数と思われるほどの活動をしていることは、市内でも余り知られていませんでした。「幸福の青い鳥」は意外と身近にいるものです。しっかりお探しください。よく価値をご認識になり、積極的にご参加され、大きくお育てください。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も皆様のお役に立つ本を何冊かご紹介いたします。

- (1) 1冊目は、大久保和孝著「コンプライアンスリスクに対するリテラシーの高い組織をつくる」第一法規 2021年4月5日刊です。「激動の時代を生き抜くための唯一の不祥事予防法」がよくわかります。大久保氏は、公認会計士で、公認不正検査士です。本書をコンプライアンスの教科書になさることをおすすめします。
- (2) 2冊目は、東京大学公共政策大学院院長、大橋弘著「競争政策の経済学 人口減少・デジタル化・産業政策」日本経済新聞出版 2021年4月14日刊です。デジタル経済の寡占による弊害を把握するためのあるべき手法について新しいイノベーションが求められています。
- (3) 3冊目は、ワシントンD.C.に在住するポリティカル・アナリスト、ポール室山著「ライジング・ジャパン」中央公論新社 2011年5月25日刊です。3.11東日本大震災からの復興を願っての警世の書ですが、コロナ禍後の日本を考える絶好のテキスト。「バイリンガル教育」の提言は圧巻。コロナ禍後の日本を考えるのに、本書で紹介された和辻哲郎著「鎖国—日本の悲劇(上)(下)」岩波文庫、岩波書店 1982年2月16日刊も絶好のテキストと考えます。和辻氏による信長の再評価は、驚くほど新鮮です。
- (4) 4冊目は、辻本雅史著『『学び』の復権—模倣と習熟』岩波現代文庫、岩波書店 2012年3月16日刊です。江戸期に学びの原点、「自己学習の文化」を探る本書で、貝原益軒著「養生訓・和俗童子訓」岩波文庫、岩波書店 1961年1月5日刊の後半、「和俗童子訓」の重要性を認識しました。「養生訓」は超有名ですが、江戸の教育を知る上での最重要テキストとしてお読み頂きたいのは「和俗童子訓」です。貝原益軒著「大和俗訓」岩波文庫、岩波書店 1938年9月15日刊とともにお読みになり、日本における「学習文化」の原点を学びましょう。
- (5) このコロナ禍は長引きそうです。そこで地頭を鍛えるために、5～8冊目として「四書五経」のうちの「四書」とよばれる「論語」「孟子」「大学」「中庸」の4冊を、できれば明治書院刊の新釈漢文大系で読むことをおすすめします。コロナ禍の難局を乗り切り、コロナ禍後に備えるには、明治維新を迎える数十年前の幕末の志ある人々と同じように、大人も子どもも、年齢に関係なく高い志を持ち、四書をテキストに漢文と語学(とりあえずは本格的な英語)の修得に励む以外ないようです。
- (6) 最後に是非ご紹介したいのは、古野俊幸著「ドラゴン桜と FFS 理論が教えてくれる あなたが伸びる学び型」日経 BP2021年4月22日刊です。私の尊敬してやまない教育学博士、小林恵智先生の FFS 理論と「ドラゴン桜」を組み合わせたらどうなるか、興味が尽きません。学習塾・予備校・私立学校の先生方の必読書です。